

課 題

1. 新知見への対応
2. バリュー・インパクト解析
3. 安全目標
4. バックフィット基準
5. 不確実さ
6. レベル3PRA
7. リスクコミュニケーション
8. 組織文化とリーダーシップ
9. レジリエンス
10. 文書化

安全性向上対策採用の考え方タスクの提言

前記の10の課題に対して、我が国の現状を踏まえつつ、当面
急ぐ課題対応として下記2点を提言

新知見への対応

関係組織が新知見の共有、評価を行えるような作業会を設置する。例えば、研究開発に関しては、軽水炉安全技術・人材ロードマップを作った安全対策高度化技術検討特別専門委員会の後継組織の検討が進んでいるが、その傘下に作業会を設置する。また、標準に関しては、産官学が集う学協会協議会の傘下に作業会を設置する。

バリュー・インパクト解析及び意思決定プロセスの具体化

安全性考え方タスクの報告書の具体化を求める声は既に多くあること、及び米国には多数の文献があることから、バリュー・インパクト解析の実施の考え方の標準作り、及び意思決定プロセスをさらに具体化した標準作りを、標準委員会傘下の関連する分科会で、あるいは新たに分科会を設置して推進する。

参 考 资 料

課題と今後の進め方の概要(1/3)

課題とその概要	今後の進め方の概要
<p>1. 新知見への対応 最新の科学的知見の収集・分析の在り方について検討する必要がある</p>	<p>・研究開発:安全対策高度化技術検討特別専門委員会の後継組織の傘下に作業会はどうか、標準:学協会協議会の傘下に作業会はどうか</p> <p>・新知見の認定フロー及び判断基準、WANO情報の取扱い、背景要因の深堀りの取扱い、などの明確化が必要</p>
<p>2. バリュー・インパクト解析 統合的意思決定プロセスの具体化に際しては、まずは、米国のバリューインパクト(Value-Impact)を参考にしてはどうか。</p>	<p>バリュー・インパクト解析の実施の考え方の標準作り、及び意思決定プロセスをさらに具体化した標準作りを、標準委員会で推進する</p>
<p>3. 安全目標、 4. バックフィット基準 確率論的ターゲット(最終的なゴール)、決定論的ターゲットの策定に向けた検討が行われるべきである</p>	<p>安全対策高度化技術検討特別専門委員会の後継組織の傘下に作業会はどうか</p>

課題と今後の進め方の概要(2/3)

課題とその概要	今後の進め方の概要
<p>5. 不確実さ</p> <p>未知の部分があること、不確実な部分があるというPRAの不完全性も考慮に入れて、総合的な意思決定を行う必要がある</p>	<p>欧米においても未だ具体的なガイダンスは見当たらない。今後精力的な研究開発が望まれている</p>
<p>6. レベル3PRA</p> <p>米流のバリュー・インパクト解析を実施するためには、(代表プラントの)レベル3PRAまで実施する必要がある</p>	<p>レベル3PRA標準の改定は既に進行中である。安全目標と密接に関連するので、安全目標と一緒に検討を進める</p>
<p>7. リスクコミュニケーション</p> <p>ステークホルダーが広く互いの立場や見解を理解し合った上で、それぞれの行動変容に結びつけることのできるコミュニケーションを目指す必要がある</p>	<p>従来の研究開発の延長線上では解決できず、学術会議レベルの広がりの中で研究開発を進める必要がある。当面は関係組織の研究開発の状況を注視する</p>

課題と今後の進め方の概要(3/3)

課題とその概要	今後の進め方の概要
<p>8. 組織文化とリーダーシップ 組織成員の各階層において個々人がリーダーシップを発揮し、価値観を共有するための組織文化が醸成されているというようなリーダーシップのあり方が重要</p>	<p>原安進での個別具体的な取組み、規制庁での規制としての検討、JEACの改定動向、IAEAやNRCの議論の行方を注視しつつ標準に取り込んで行く</p>
<p>9. レジリエンス ソフト面の安全対策として「レジリエンス」を取り入れるには、SAのより一層の影響緩和を図るための具体的な方法論や判断基準などの検討が必要である</p>	<p>未だ研究開発が始まったばかりであるので、当面は関係組織の研究開発を注視する</p>
<p>10. 文書化 同一/類似案件の意思決定については前回の判断の根拠を参照し、改善を検討することが重要になる</p>	<p>バリュー・インパクト解析の実施の考え方の標準作り、及び意思決定プロセスをさらに具体化した標準に取り込んで行く</p>